

特集：彦根景観フォーラムのあゆみ②

寺子屋力石再生と辻番所足軽屋敷の保全

前号に引き続き、彦根景観フォーラムの7年のあゆみをたどり、使命と具体的な目標・活動、課題について振り返ってみます。

ひこね街の駅・寺子屋力石の再生

2005年1月、彦根景観フォーラムは、花しょうぶ通り商店街から「江戸期に寺子屋であった町屋が数年来空家になっており、活用方法を検討して欲しい」と依頼を受けました。



彦根景観フォーラムでは、彦根市観光まちづくり懇話会が2004年に提言した「彦根まち博物館構想」、すなわち旧城下町

を8つのゾーンに分け、空き町家等を活用して各地域の歴史や文化を発信するとともに地域に人々と来訪者の交流をはかる拠点を整備する構想の実証を行うこととし、プロジェクトチームを組織しました。

2005年5月、公開実測調査を行い図面を作成、利用可能な範囲と補修すべき箇所と内容を決定し補修に着手しました。また、利用コンセプトを「人と情報が集まり散ずるまちなかプラットフォーム『ひこね街の駅・寺子屋力石』」とし、事業計画を作成しました。運営組織として商店街と景観フォーラム、その他の賛同者で実行委員会を設置しました。

こうして、2005年10月に「ひこね街の駅・寺子屋・寺子屋力石」はオープンしました。12月からは連続10回にわたって「商人塾」を開催するとともに、いきいき塾、サイクリングの駅、花しょうぶ学舎（おさらい塾）、手作り甲冑教室、陶芸教室、喫茶、ユビキタス観光情報キオスクなどの複合的な活用を図りました。

談話室・それぞれの彦根物語

2006年5月、人と情報が集まり散ずる街の駅のコンセプトに基づき、彦根城築城四百年祭記念「談話室・それぞれの彦根物語」を開始しました。これは、彦根に暮らす人、彦根を愛する人が自分の

物語を語り、それを種に彦根での楽しみ事を共有し、より充実した生活につなげようという企画で、当初は毎週土曜日の午前中に開催しました。小さな町家で、机を囲んで話を聞き、会話を楽しむ雰囲気好評で、2011年10月現在で85回の開催となっています。



彦根あそび博・新しいまち歩き観光

「それぞれの彦根物語」で語られた彦根の魅力や一人ひとりのストーリーを紡いで、みんなで歩いて楽しむ「彦根あそび博」を、2007年春と秋に実施しました。芹川堤、雨壺山、脇街道・七曲がり、高宮宿、魚屋町・芹組足軽屋敷、内曲輪・城郭、天寧寺、佐和山、鳥居本の9つのまち歩きプログラムを開発し、20~30人の一般参加者とともに、スローなまち遊びを楽しみました。



これを契機に、従来彦根城に限られていた観光が、「まち歩き観光」として様々な組織で行われるようになりました。

LLP「ひこね街の駅」による運営

寺子屋力石での甲冑教室、その縁で開催された佐和山研究会、そこから新しいマスコットキャラクター「しまさこにゃん」が誕生し、コンテンツ・ビジネスを含めたひこね街の駅の経営のために、2007年4月、LLP（有限責任事業組合）「ひこね街の駅」が発足しました。

2008年3月、廃業した銭湯を改修した第二ひこね街の駅「戦国丸」がオープンし、あ



わせて「いしだみつにゃん」がデビュー。11月には「おおたににゃんぶ」も登場し、佐和山で「義の三将」による佐和山再会劇が400人近いファンを集めて開かれました。現在、戦国丸は戦国キャラクターショップとして活況を呈し、様々なイベントや石田三成検定などが次々に企画され実施されています。



耐震補強と火災・再興プロジェクト

木造伝統工法で建てられた寺子屋力石は、耐震診断から多くの課題が明らかになりました。

そこで、「木造伝統構法・彦根研究会」により市民参加型ワークショップで耐震補強が行われました。これには木造伝統構法にふさわしい新しい方法が導入され、近隣市民や大学生、高校生が参加するなどの革新性が評価され、日本耐震グランプリ内閣総理大臣賞を2008年に受賞しました。



ところが、2011年1月、出火により寺子屋力石は半焼、一時は解体も考えられましたが再興プロジェクトにボランティアの力が寄せられ、応援ソング「前へ、前へ」のチャリティCD売上げや多くの方の募金により、応急修理が完了しました。

辻番所足軽屋敷の保存活用運動

2007年8月、辻番所をもつ足軽屋敷が売却されるという情報をもたらされました。彦根景観フォーラムでは、重要な歴史遺産が危機に瀕していると判断し、市民による買取運動を宣言しました。

12月に芹橋の住民を中心とした60名と「彦根古民家再生トラスト」を結成し、募金活動、辻番所・足軽屋敷の現地公開、実測調査、シンポジウム、利用ワークショップを実施しました。



この結果、建物は早急な解体修理が必要と判明し、緊急修理を施した後、600万円を市に寄付、市が買い取って指定文化財とし、保存修理を「歴史まちづくり計画」に基づき行うこととなりました。



これによりトラストは解散しましたが、芹橋では新たに市民参加の「彦根辻番所の会」が発足し、「足軽辻番所サロン・芹橋生活」を毎月開催し、現在24回を迎えています。(次号に続く)

レポート&お知らせ

●【それぞれの彦根物語85】

10月15日(土) 10:30~12:00 寺子屋力石

「患者の言い分、医者の言い分」



綿貫 正人(彦根市立病院循環器科部長)

病院と市民の間にある理解不足や垣根を取り払い、いい医療を協働して作り上げようと奮闘する熱血ドクターの物語でした。(堀部)

●【それぞれの彦根物語86】

11月12日(土) 10:30~12:00 寺子屋力石

「罹災史料の保存に向けて ~寺子屋力石家伝来史料~」

堀井靖枝(滋賀大学経済学部附属史料館)
火事で罹災した力石家伝来の「手跡指南職」株仲間史料から彦根の寺子屋の実態を紹介し、罹災史料の救出、保存、修復についてお話しします。

●【足軽辻番所サロン・芹橋生活24】

10月16日(日) 10:00~11:30 太田邸

「帯刀人の身分と村落社会」

母利 美和(彦根景観フォーラム理事、京都女子大学文学部教授)
神崎郡種村の大橋家は百姓身分ながら帯刀人として認められ「農」と「兵」の中間的存在でした。大橋家の村落での身分的位置づけを考えます。

●【足軽辻番所サロン・芹橋生活25】

11月20日(日) 10:00~11:30 太田邸

「江戸時代、彦根の女性の旅

—自芳尼「西国順拝名所記」から—

青柳 周一(滋賀大学経済学部附属史料館教授)
安政元年、善利橋四丁目の彦根藩足軽・柴田惣次の妻「自芳尼」が72日間の旅に出た。その旅日記を用いて、江戸時代の女性の旅を読み解きます。